【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【公表番号】特表2000-502848(P2000-502848A)
【公表日】平成12年3月7日(2000.3.7)
【出願番号】特願平9-523391
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｂ　10/02
　Ｇ０２Ｂ　 6/00
　Ｈ０４Ｂ　10/18
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｂ　 9/00　　Ｍ
　Ｇ０２Ｂ　 6/00　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成15年12月16日(2003.12.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書

平成１５年１２月１６日

特許庁長官　殿

１．事件の表示　　平成９年特許願第５２３３９１号

２．補正をする者

名　称　　アルカテル

３．代　理　人　　東京都新宿区新宿１丁目１番11号　友泉新宿御苑ビル
(郵便番号　160-0022)　電話(03)3354-8623
(6200)　弁理士　　川　口　　義　雄

４．補正命令の日付　　自　発

５．補正により増加する請求項の数　　なし

６．補正対象書類名　　請求の範囲

７．補正対象項目名　　請求の範囲

８．補正の内容
（１）請求の範囲を別紙の通り補正する。

特許庁 15.12.17 出願支援課 平瀬

方式審査 佐藤

別紙

請求の範囲

１．付加／引込みチャネル（２２、２０）が設けられることを特徴とする一つまたは複数の分岐ユニット（１８）を有する光ファイバ幹線（１２）を有し、幹線中で発生する分散の特徴とは反対符号になるという分散特徴を有する、付加チャネル（２２）の波長を事前分散させる手段（３０、３６、２２）を有する、ＷＤＭ光伝送システム。

２．幹線中で発生する分散の特徴とは反対符号の分散特徴を有する、引込み波長を分散させる手段（３４、２０）を、引込みチャネル（２０）中に備えることを特徴とする請求の範囲第１項に記載のシステム。

３．付加チャネルまたは付加および引込みチャネルの波長を分散させる手段が、付加ファイバ（２２）または付加および引込みファイバ（２２、２０）自体であることを特徴とする請求の範囲第１項または第２項に記載のシステム。

４．付加チャネル（２２）または付加および引込みチャネル（２２、２０）の波長を分散させる手段が、付加チャネルファイバ（２２）中の回線に結合された前記反対の分散特徴である分散補償ファイバエレメント（３６）、または各付加および引込みチャネルファイバ（２２、２０）中の補償ファイバエレメント（３６、３４）を含むことを特徴とする請求の範囲第１項または第２項に記載のシステム。

５．付加チャネルの波長を事前分散させる手段が、両方向補償を提供する共通ファイバ経路（２９）を含むことを特徴とする請求の範囲第１項または第２項に記載のシステム。

６．共通ファイバ経路（２９）のファイバが、必要な分散特徴を有するように選択され、幹線中の付加チャネルの波長の分散を補償することを特徴とする請求の範囲第５項に記載のシステム。

７．共通ファイバ経路（２９）のファイバが、共通ファイバ中の回線に結合された前記反対の分散特徴である分散補償エレメント（３０）を含むことを特徴とする請求の範囲第５項に記載のシステム。

８．共通ファイバ経路（２９）が、三ポートサーキュレータ（３２）を介して引込みおよび付加チャネル（２２、２０）と結合されることを特徴とする請求の範

囲第５項から第７項のいずれか一項に記載のシステム。

９．共通ファイバ経路（２９）が、三ポートサーキュレータ（２８）を介して分岐端末の送信機（２６）および受信機（２４）と結合されることを特徴とする請求の範囲第５項から第８項のいずれか一項に記載のシステム。

１０．色分散補償装置（１６）が、幹線（１２）中の分岐ユニット（１８）の前に設けられることを特徴とする前記請求の範囲のいずれか一項に記載のシステム。

１１．分散補償装置（１６）が、中間チャネル波長を補償するように配列され、引込みチャネル波長が、それより長いまたは短い波長になるようになっていることを特徴とする請求の範囲第１０項に記載のシステム。

１２．分岐から幹線に付加される波長に、幹線上で発生する波長の分散とは反対符号の分散を適用する段階を特徴とするＷＤＭ光伝送システムの幹線中で発生する分散を補償する方法。